

DVD を見て、次の問いに答えてみよう。

1 地震・火災について、次の文の空欄を埋めましょう。

- ①古い建物、特に（ **1980** ）年以前の耐震基準でつくられた建物は倒壊の危険がある。
2016年の熊本地震では震度（ **7** ）クラスの地震が短い間隔で相次いだことで、新耐震基準を満たした建物でも倒壊した例がある。
- ②耐震設計が十分な建物でも（ **家具などの転倒** ）によるケガの恐れがある。
- ③建物の密集地帯では（ **火災** ）が発生しやすく、中には（ **火災旋風** ）となって広範囲に被害を与えることが予想されている。
- ④都市部や沿岸部では、地盤が液状状のようになる（ **液状化** ）の被害も想定される。
- ⑤地震対策としては、棚上の食器や水槽などについて（ **落下防止** ）の対策をすることや、避難するときに通路や扉をふさがないように、家具に（ **転倒防止** ）をするとよい。

2 津波について、次の問いに答えましょう。

- ①津波の危険がある地域で、大きな地震に見舞われて避難する場合、避難する場所はどのような場所が良いか。

速やかに海から離れ、高所に避難する。
海から離れた高台や、津波避難タワー、津波避難ビルマークのある鉄筋ビルなどの建物 など。

3 火山被害について、次の文の空欄を埋めましょう。

- ②火山災害の被害としては、噴火による火口の爆発で飛び出した（ **噴石** ）によるもののほか、大量の（ **火山灰** ）が風によって広い範囲に広がり、交通まひ、農作物や健康への被害などがある。高温の火山灰、火山ガスが一体となって斜面を駆け下りてくる（ **火砕流** ）と呼ばれる災害もある。
- ③火山災害から身を守るためには、（ **噴火警報** ）に注意して迅速な対応をとることが必要である。気象庁や各自治体などの情報を常に確認しておくようにする。

月 日 曜日 年 組 番 氏名：

4 次の気象災害について、次の表の空欄を埋めましょう。

気象災害の種類	前兆・判断のポイント	対応
洪水・土砂災害	川で水が異常に濁る、流れに流木が混じる、地鳴りやいつもと違う土臭い（ 匂い ）がする。	速やかに安全な場所に避難する。
竜巻	外が急に暗くなる、普段見慣れない形の（ 雲 ）が広がる、激しい雷が鳴っている、ひょうやあられが降り始める。	鉄筋コンクリート造の頑丈な建物に避難する。
雷	稲光や、雷鳴など雷雲が近づいてくる。	鉄筋コンクリートの建物、車やバス、（ 電車 ）の中に避難する。
大雪	（ 天気予報 ）をチェックする。	外出を控える、早めに帰宅する。

5 災害に対する日頃の備えについて、次の問いに答えましょう。

- ①自然災害から身を守るための「自助」「共助」「公助」の意味はなにか？

- ・自助 [**自分の命は自分で守る。**]
- ・共助 [**家族や地域の人々がお互いに助け合う。**]
- ・公助 [**国や自治体が行う災害対策。**]

- ②「避難の三原則」を答えよう。

想定にとらわれるな	最善をつくせ	真っ先に逃げろ
------------------	---------------	----------------

- ③各自治体で発表しているハザードマップにはどのようなことが載っているか。

どんな災害の恐れがあるか、想定される被害状況、避難場所の情報 など

- ④被災してしまった場合、救助・援助を待つあいだの備えとして、必ず確保しておきたいものを2つ挙げてみよう。

【解答例】 [**飲料水**] [**非常食**]